

第53回(平成27年度)北海道優良米生産出荷共励会最優秀賞受賞者現地報告

移植栽培部門 個人の部

第1部 最優秀賞

(うるち12.0ha以上)

受賞者氏名 堀 政博
住所 空知郡奈井江町瑞穂3区
審査員 北海道農政部生産振興局技術普及課
主査(普及指導) 李家真理

1 経営の概況

(1) 耕地面積 21.9ha (田・畑の合計)

(2) 水稲作付面積 16.0ha

項目	年次	平成25年	平成26年	平成27年	3カ年の平均
水稲作付面積		10.8 ha (10.8)	11.5 ha (11.5)	16.0 ha (16.0)	12.7 ha (12.7)

2 家族の就業状況

本人・続柄	年	性別	平成25年	平成26年	平成27年
本人	38	男	○	○	○
妻	26	女	○	○	○
父	65	男	○	○	○
母	61	女	○	○	○
祖父	92	男			
(備考)					

3 立地条件と稲作の経歴

(1) 地勢・立地条件

奈井江町は、北海道のほぼ中央部空知総合振興局管内の中央に位置し、東部は歌志内市・上砂川町に隣接した丘陵地帯が続き、西部は石狩川で浦臼町・新十津川町と境する地帯に位置している。

交通は、JR函館本線と国道12号線が中央を、東側山手には高速道央自動車道が南北に縦貫し、札幌市まで約80km、旭川市まで約65kmの距離で結ばれている。

産業は、石狩川流域の肥沃な土地と豊富な水資源、恵まれた気象条件を背景に、稲作を中心とした農業を基幹としている。

(2) 稲作の経歴

奈井江町の水田耕地面積は1,620haであり、転作強化の影響を受けつつも転作率は24%と低い。背景には、高級ブランド品種である「ゆめぴりか」の高品質米出荷割合が高いこともあり、その作付面積が順調に増加するなど、道内有数の良食味米産地として着実にレベルアップしていることが挙げられる。

堀氏の住む瑞穂地区は、明治22年に奈井江町で最も早く開拓の鋤が入った地区であり、明治26年には、奈井江町で初めて稲が試作されたといわれている。

経営主である政博さんは戦争から帰ってきた祖父がこの地区に入植して3代目であり、平成9年に北海道立農業大学校を卒業後すぐに、父利幸さんの跡を継ぎ水稲・メロンの複合経営農家として自立、平成24年に奥さんの希さんと結婚。平成24年に政博さんが経営主となってからは、米の高付加価値化（減農薬栽培や低タンパク米の生産）に積極的に取り組んでいる。

近年は、施設の老朽化や近隣農家の離農に伴い徐々に水田面積を拡大しており、直播栽培による新規需要米にも地域に先駆けて取り組んでいる。

4 稲作技術の特徴

(1) ケイ酸資材の積極的な投入と透排水性改善

ケイ酸資材は、融雪と土壌改良を兼ねて毎年10a当たり120kgを施用するとともに、自作の散布機を用い、幼穂形成期7日後に「ゆめシリカ」を毎年10a当たり20kg散布している。また、毎年全ほ場において心土破碎と溝切りを併用して実施すると共に、幼穂形成期前および開花直前には中干しを積極的に行うほか、暗渠についても事業の導入や自力で改修するなど、積極的にほ場の透排水性改善に努めている。

さらに、稲ワラは秋に鋤込むことにより、食味改善と地力の維持・増進にも腐心しており、一部搬出も行っている。

項目		年次	平成25年	平成26年	平成27年
堆厩肥施用量kg/10a			-	-	-
稲わらの処理法	前年産	春鋤込	-	40%	-
	当年産	搬出	-	-	-
		秋鋤込	100%	60%	100%
土壌改良材kg/10a	資材名	粒状ケイカル	粒状ケイカル	粒状ケイカル	
	施用量	120kg	120kg	120kg	
透排水性改善			心土破碎	心土破碎	心土破碎
(備考) 心土破碎と併せて溝切りを行っている。幼穂形成期7日後に「ゆめシリカ」を20kg/10a散布している。					

(2) 施肥量および施肥法

JAおよび普及センター指導の下で毎年ほ場毎に行っている土壌診断結果に基づき、肥料銘柄の選定、施肥量の調整を実施することによって、低コスト生産が実現されている。また、全面積の3分の2で特別栽培や高度クリーン栽培を行っており、有機質肥料が施用され、環境負荷の低減が図られている。

施肥量については、窒素成分で地帯における施肥標準が遵守されており、また、初期生育

を確保し良食味米を生産する目的で、いち早く成苗ポット育苗や側条施肥を導入しており、側条窒素割合の向上にも努めている。基肥は特別栽培や高度クリーン栽培をのぞき、速効性成分主体の化成肥料を使用している。

項目		年次	栽培区分	平成25年			平成26年			平成27年		
				N	P	K	N	P	K	N	P	K
施肥 (kg/10a)	全層	特裁・高度 慣行	3.6	3.6	2.2	3.6	3.6	2.2	3.6	3.6	2.2	
			4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	
	表層	-			-	-	-	-	-	-		
	側条	全て			4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	

(3) 作付品種

項目		年次	平成25年	平成26年	平成27年
作付面積	品種名	きらら397	2.2ha	1.5ha	3.8ha
		ななつぼし	5.2ha	4.1ha	6.3ha
		ゆめぴりか	3.4ha	4.5ha	4.5ha
		きたくりん	-	1.4ha	1.4ha
	合計		10.8ha	11.5ha	16.0ha

高度クリーン栽培や特別栽培を実施しており、高度クリーン栽培の割合を年々増加させている。また、「ゆめぴりか」「ななつぼし」「きらら397」「きたくりん」をバランスよく作付けし、作業の分散を図っている。

5 クリーン農業等の取り組み

「JA新すながわカエル倶楽部」という高度クリーン米（農薬成分回数5以内）組織の一員として、ほ場に直接足を入れて自主的に行っているドロオイムシやいもち病の予察活動、カメムシのフェロモントラップを活用した発生対応型防除や適期の畦草刈り実施により被害粒軽減による高品質米の生産に取り組んでおり、その高い技術力と熱心な研究姿勢により、地域の減農薬米栽培の技術向上に貢献している。

	平成25年	平成26年	平成27年	3カ年の合計
高度クリーン米取組面積①	1.7ha	3.9ha	8.4ha	14.0ha
有機JAS・特裁米・環境保全型農業等取組面積②	6.9ha	6.2ha	3.9ha	17.0ha

上記①②の面積については加工用米・新規需要米・政府備蓄米面積を含めない

6 特徴的・先駆的な取り組みと産米出荷実績

(1) 適期作業

NAIS（奈井江町農業情報システム）や普及センターから随時発信される営農技術情報を活用することにより、農薬や除草剤の適期散布や幼穂形成期前の中干し、水位測定板を活用した前歴及び冷害危険期の適期深水管理や適期収穫など適期作業に努めることにより、高品質米の安定生産が実現されている。

また、イネの葉令や幼穂形成期の確認をJAおよび普及センターと連携して毎年行っており、ほ場毎に生育期節を細かく把握し、適期作業に結びつけている。

(2) 育苗管理

育苗管理は成苗ポットの置床鎮圧および緩効性肥料の育苗箱追肥により健苗が育成されており、苗の活着も良好である。

(3) その他

品質向上のため、出穂25日後（穂屈み期）まで走水を継続している。玄米判定による下見検査を行い、適期収穫を心がけている。ライスターミナルに出荷するもの以外、全て二段乾燥を行っている。

また、仕事や地域活動に積極的かつ誠実に取り組む姿勢から地域住民の信頼も厚く、平成20年にJA新すながわ青年部長、平成22年にはJA青年部空知地区連合会副会長、平成25年からJA新すながわ特別栽培米生産組合副組合長、平成26年から同メロン生産組合長、平成27年から同ゆめぴりか生産協議会TIA（Technique Information Adviser；地域の技術連絡員）の一員として地域を牽引している。

堀氏はTIA活動の中で、普及センターとJAが連携して行っている施肥面談に於いて、一般生産者に施肥設計の助言を行ったり、TIAとして地域情報を積極的に発信して気象や病害虫による被害の拡大を未然に防いだり、JA青年部活動の一環として普及センターと連携して後継者向けの技術研修会を開催し、後継者に管理作業のポイントを助言するなど、技術継承活動も積極的に行っている。

項目		年次	平成25年	平成26年	平成27年	3カ年の平均
総出荷数量 ①			769俵	864.5俵	1,319俵	2,952.5俵
一等米数量 ②			769俵	864.6俵	1,320俵	2,952.6俵
一等米比率②/①			100%	100%	100%	100%
高品質米 出荷数量	精米タンパク質含有率6.8%以下かつ整粒80%以上		122俵	108.5俵	148俵	378.5俵
	精米タンパク質含有率6.9%以下		331俵	351俵	1,048.5俵	1,730.5俵
	合計		453俵	459.5俵	1,196.5俵	2,109俵

(執筆：空知農業改良普及センター中空知支所 地域第一係長 添 島 均)